

全国港湾Fax通信

No.

(公・事・取扱注意・親展)(写)	(発番)全国港湾22FAX第71号
(宛先) 各 四役、中執、単組委員長、地区港湾議長	2023年 3月 15日 時 分
(件名)	(発信者) 自動化・機械化WG 事務局 松永 

3/15 自動化・機械化に関する労使WGの協議経過について

(本文)

1. 3月15日(水)14時50分より開催した標記WGは、昨年12月22日と2月27日に開催した中央事前協議会で協議し、WGに検討を付託された名古屋港NUCTのT2バースについて、改めて協議した。

2. WGの森川座長より、上記の案件について、労側が現地を視察したことを受けて、本日のWGで検討したいとあり、業側の事務局より、詳細の説明が以下の通りあった。
 - (1) 2月27日に提出した名古屋港NUCTのT2バースのRTG遠隔操作について、差し替えた書類を提出する。
 - (2) 内容は、RTG導入バースについて、T2バースの17基中の7基だけに限定して遠隔操作することとして、再申請する。

3. 組合からは、2月24日に視察した結果、名古屋港NUCTのT2バース、RTGの7基に限りWGで了解とすると回答した。

4. その結果、WGとして、現認された範囲で了承することとして、自動化・機械化に関する労使協議会へ本件を上程することとした。

5. 日港協から、港湾技術開発制度の公募として以下の提案があり、検討を求められた。
 - (1) 遠隔操作ガントリークレーン開発の件
 - ① データ取りのために日港協にお願いが出ている。
 - ② 東京港大井の郵船ターミナルでJFEエンジニアリング(株)が行いたいとしている。
 - (2) コンテナ船荷役横持トレーラーの自動運転の件
 - ① 現在、上記のトレーラーは、二直体制で行っている。夜中の疲労軽減のためにふそう(株)と共同研究を実施したいとした。
 - ② 自動運転と言いながら、運転手はトレーラーに乗って負担軽減のために行きたい。

6. 組合側は、二件の提案に対し、WGの場では返答しにくいとしながらも、以下の内容を答えた。
 - (1) 国土交通省との協議でガントリークレーンのAI化にむけた暗黙知データ取得と構内シャーシの自動化は、明確に拒否することとして答えている。

- (2) 遠隔操作ガントリークレーン開発については、「反対」する。
- (3) 横持トレーラーの自動運転は、外来シャーシの自動運転の時に断りを行っていることや、労使の合意がないのに、了解することは出来ない。現場では、人手不足で苦勞されているのは理解するが、この場で意見を言うべきではないと考える。

7. 議論の結果、遠隔操作ガントリークレーン開発については、組合が「反対」しているとして、提案側に伝えとし、コンテナ船荷役横持トレーラーの自動運転については、一度、関係事業者から話を中央労使で聞く事とし、WGを終了した。

以 上